



Weekly Report



クラブテーマ 「和の心」で 笑顔あふれるロータリー活動を

2024-2025 小林 篤 年度 第 8 回

通算 2850 例会

令和 6 年 9 月 12 日(木)
9 月第 2 例会

本日の例会

例会場 料亭ふな又
点鐘 12:30
テーマ 部門セミナー報告
主管 会長・幹事

- ・ロータリーソング
我等の生業
- ・四つのテスト・ロータリーの目的
駒澤あい 会員

次回例会案内

令和 6 年 9 月 19 日(木)

例会場 料亭ふな又
点鐘 18:00
テーマ クラブ協議会
(公式訪問準備例会)

2024-2025 年度

岩槻ロータリークラブ

会長 小林 篤
幹事 内藤 明
会報・広報・IT委員長 樵 康史
例会場 ふな又
例会日 木曜日
点 鐘 第 1・第 2 12:30
第 3 18:00

クラブ事務所

さいたま市岩槻区本町 3-8-2-203
TEL 048-758-0680
FAX 048-758-0681
MAIL info@iwatsuki-rotaryclub.jp



会長挨拶

第 62 代会長 小林 篤

皆さん、こんにちは！
本日の例会では、会員増強部門および社会奉仕部門からのセミナー報告が予定されています。参加された方々からの報告を通して、重要な内容を会員の皆様と共有したいと思います。

先週の早朝例会には、多くの会員にご出席いただき、特に遠藤パスト会長には大変お世話になりました。早朝の開催にもかかわらず、皆さんのおかげで充実した一日となりました。ありがとうございました。



さて、来週の例会は、いよいよガバナー公式訪問準備例会となります。多くの会員のご参加を心よりお待ちしております。

次に、ポリオ撲滅についてお話します。ポスターにもありますように、ポリオはもう少しで根絶が達成される所でしたが、残念ながらパレスチナのガザ地区アフガニスタン、ナイジェリアで新たな発症例が報告されました。特に、ガザ地区では 2024 年に 25 年ぶりのポリオ患者が確認されました。患者は 10 か月の男児で、左足に麻痺が見られ、原因はワクチン由来のポリオウイルス 2 型 (cVDPV2) です。

このウイルスは、同年 6 月に下水から検出されており、感染拡大の懸念が高まっています。ガザの医療インフラの脆弱さや衛生状態の悪化が、この問題を深刻化させています。調査によると、発症が見られた地域は共通して政情が不安定な国々です。医療インフラの不足や衛生状態の悪さが原因となっており、ポリオの発症を抑えるには、政情の安定や平和の実現が最も効果的であると考えています。

では、なぜロータリーがポリオ撲滅に力を入れているのか、理由をご説明します。ロータリーは、1985 年に「ポリオプラス (PolioPlus)」というキャンペーンを開始し、ポリオ撲滅に向けて資金とリソースを提供してきました。いくつかの理由がありますが、最も重要なのは、ポリオが特に子供に深刻な影響を与える病気であり、ワクチン接種によって予防可能なためです。また、国際的なパートナーシップを通じて、世界的に感染を減少させることが可能であり、ロータリーの奉仕理念「超我の奉仕」を体現するものです。

現在、ほとんどの地域でポリオは撲滅されつつありますが、一部の国では依然として感染が確認されています。ロータリーはこの活動を継続し、完全な撲滅を目指しています。

そのため、岩槻ロータリークラブでもポリオ撲滅募金を活発化させたいと考えています。皆様のご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

幹事報告

幹事 内藤 明

- ① 去る 8 月 19 日に会計監査が終了し、岩槻ロータリークラブ 2023-24 年度決算報告書がまとまりましたので回覧いたします。
- ② 11 月 16 日・17 日に地区大会が開催されます。17 日 (日) の本大会ではクラブと新会員の紹介もありますのでご出席をよろしくお願いいたします。
- ③ 熊木雄太郎ガバナーエレクトから次年度地区役員推薦のお願い。クラブの締切は 9 月 30 日です。
- ④ 大宮西 R C 石見重則会員 (86 歳) が 8 月 24 日ご逝去、ご葬儀はご親族のみで執り行われたそうです。ご冥福



をお祈りいたします。

- ⑤ 岩槻高等学校より岩高祭協賛のお礼状
- ⑥ 公益財団法人ロータリー米山記念奨学会より「ハイライト米山 293 号」、秋季例祭、賛助会のお知らせ、「米山梅吉記念館 館報秋号」。
- ⑦ R I 日本事務局より「財団室ニュース 9 月号」
- ⑧ 公益財団埼玉県腎・アイバンク協会より第 36 回「目の愛護デー」のご案内
- ⑨ 大宮西 R C、大宮東 R C、岩槻東 R C、大宮北東 R C から 9 月の例会予定表
- ⑩ 大宮西 R C、大宮東 R C、大宮北東 R C から週報

表彰

●第 35 回米山功労クラブ 岩槻ロータリークラブ



●第 10 回米山功労者メジャードナー 中村 正 会員



クラブの現会員では遠藤会員と中村会員のお二人が米山記念奨学会のメジャードナー（大口寄付者）として登録されています。また、8月に田畑会員が準米山功労者として登録されました。おめでとございます。



メジャードナーのバッジ

2024-25 年度地区部門セミナー報告

●会員増強維持部門セミナー報告

会員増強委員長 鈴木真樹

7月15日に大宮ソニックで行われた会員増強維持部門のセミナー報告をさせていただきます。



R I 会長ステファニー A. アーチック氏は R I の 2024-25 年度の方針の中で会員の維持増強を掲げ、各地区 100 名の増強と新しいクラブ 4 つの設立を目標にしております。

これを受けて、岡村ガバナーは 100 名の増強と新しいクラブ 4 つの設立が目標であることを確認、2770 地区としては 10 年以上に渡って会員数は減少し続けており、既存クラブにおいては現実的な増強数、地区全体で 30 人の達成を目指します。また、ロータリーアクトのクラブ数、会員数を増やします。大学での新しいロータリーアクトクラブの設立や、既存のロータリークラブでの会員数を増やすことをロータリーアクト特別推進委員会と協力して実行していくとの事です。

毎年 100 名近くの新会員が入会していますが、一方 200 名の退会者がいるということです。まずは会員維持が大切なのかなと思っています。そのためにも岩槻ロータリークラブがどういった活動をしている団体なのか地域の方々に知って頂くことも大事だと思います。（ポリオ撲滅募金活動など）

私の会員増強活動としては、仕事で知り合った方などに柔らかにロータリーの話題を出して興味をもってもらうようにしています。

皆さんの中にも新会員の増強活動をされている方がいると思いますが、タイミングを見て会長なり私なりに言って頂ければサポートさせて頂きたいと思っておりますので、宜しくお願いいたします。

●3 部門（管理運営・公共イメージ・会員増強維持） 合同セミナー報告

プログラム・親睦委員長 田畑寛樹

親愛なる皆様、こんにちは。本日も皆様にお会いできたことに感謝を申し上げます。過日に開催されました 3 部門合同セミナー報告をさせていただきます。



基調講演として国際ロータリー第 2840 地区パストガバナー 田中久夫様、国際ロータリー会員増強委員会委員岩澤あゆみ様のお話を伺い、その後は岡村ガバナー、羽田会員増強維持部門委員長が加わりパネルディスカッションがございました。田中様の講演はロータリークラブの「クラブ活性化」をテーマに、主に 5 つの課題とその解決策を論じています。

①クラブ活性化を阻む 5 つの壁

- ・シニア会員の自覚立ち位置：年長者がクラブ内での役割を理解していない。
- ・新会員へのフォロー不足：新規会員がサポートを受けられず、退会しやすい状況。
- ・クラブ会長のヤル不足：クラブ会長などのリーダーがクラブの拡大や維持に積極的でない。
- ・日本版 DBI（多様性、公平性、包括性）の存在：女性や若手会員の活躍が難しい文化が残っている。

- ・**クラブの自然消滅リスク**：変革を求めないクラブは放っておくと消滅する可能性が高い。

②解決策

- ・**コミュニティとの接点強化**：地域社会でのイベント参加や広報活動を通じて、クラブの存在をアピールする。
- ・**新会員への学習機会提供**：ロータリーの理念や活動を学ぶ場を提供し新会員がクラブに居続けられる環境作りを行う。
- ・**若手の挑戦を促進**：新しいアイデアや挑戦を推奨し、クラブを活性化させる。
- ・**DEIの推進**：多様なメンバーが居心地の良いクラブ文化を作ることが重要。公平で包摂的なクラブ作りを目指す。

③先人の名言や教え

- ・**先人の名言や教えを通じて、挑戦の大切さやポジティブ思考の重要性が強調されています。特に、エジソンやマイケル・ジョーダンのような人物の失敗を恐れない姿勢が、クラブの成長に必要だとされています。**

※エジソン 10,000回の失敗ではなく10,000通りの上手い方法の発見。

※マイケルジョーダン 人生で何度も何度もミスを繰り返してきた。だから成功した。

④会員増強のための提言

- ・**紹介の連鎖**：クラブ会員が自らのネットワークを使い、新しいメンバーを勧誘する。
- ・**ロータリーの魅力の再発見**：クラブが「人生の道場」として、個人の成長に寄与する場所であることを再確認する。

⑤クラブ内の文化と DEI の重要性

- ・クラブの「文化」や「居心地」が新しいメンバーの定着や成長に大きく影響を与えます。DEI（多様性、公平性、包括性）を重視し、すべての会員が自分のペースで、自分らしく参加できるクラブ運営が求められます。
- ・120年前にロータリーを設立したポール・ハリスは「寛容さ」を重要視しており、これがクラブの文化形成においても重要な要素だと強調されています。新しいメンバーを温かく迎え入れ、互いの立場を尊重することが大切です。

⑥「居心地の良いクラブ」を作るための方程式

- ・クラブの活性化や会員増強・維持の絶対的な法則は、**心地よさ（承認欲求）と温かい配慮（社会的欲求）の掛け合わせ**です。会員が認知され、クラブ内で承認されていると感じることが、会員の定着と増加につながります。

⑦ロータリーの魅力再確認

- ・ロータリーでは、会員は「人生の目的」を見つけることができるという考えが強調されています。日本の思想家や宗教家、稲盛和夫氏などの教えを通じて、ロータリーを「自分磨きの場」として捉え、人生をより豊かにする場としての意義が説明されています。

⑧例会の意義と効用

- ・例会はロータリーの最も重要な活動の一つであり、会員にとっての「人生の道場」としての役割を果たしています。シニア会員にとっては日々の「キョウヨウ」（今日、用がある）と「キョウイク」（今日、行くところがある）を提供し、若手会員には新しい人脈や経験を提供する場となります。
- ・例会はただの集まりではなく、人生において重要な学びの場であることが強調されています。

⑨会員増強の要諦

- ・会員増強のためには、クラブ内でメンバーが積極的に新たなメンバーを紹介することが重要です。「誰かに誘われて入会したあなたが、次は誰かを誘う番だ」という考えが示されています。また、孔子の教え「己の欲せざる所を人に施すことなかれ」を引用し、他者にとっても価値ある活動を提供することが大切だと述べられています。

「多様性を受け入れ、挑戦し続けることで、ロータリークラブは活性化し、未来の世代に繋げることができる。」クラブ内の多様性を大切に新たな挑戦を恐れず進めていくことが、会員の増強とクラブの成長に繋がるということではないかと思いました。

岩澤様の講演はロータリークラブの会員の「維持と増強」をテーマに、事例を交えてのものとなりました。

クラブ活性化と会員増強の取り組み

「ロータリークラブの会員維持・増強」は、会員がクラブ活動を楽しみ、クラブを活性化することです。

①クラブの抱える課題

多くのクラブが抱える課題として以下の点が挙げられます。

- ・会員数が減少し、新規会員の増強が難しい。
- ・新会員が入会しても、すぐに辞めてしまう。
- ・例会や事業への参加率が低い。
- ・クラブ内の分裂や内部問題が発生している。

②成功事例の紹介（成功したクラブの事例）

三浦ロータリークラブ

60周年を迎えたこのクラブは、雰囲気の良いと楽しい活動（増強をも楽しむ）を通じて、2022年度に29名だった会員が2023年度には59名に倍増しました。

藤沢南ロータリークラブ

衛星クラブを設立して両翼体制で、親睦を広げ会員数を増やしました。藤沢南クラブでは46名、衛星クラブでは16名の会員を獲得しており、退会していた会員が皆戻ってきた。

※衛星クラブ クラブの中のクラブ

横須賀南西ロータリークラブ

会員数が10名まで減少していましたが、会員候補の名簿の整理、オープン例会（毎月実施）や夜間例会（毎月最終例会）を導入し、新たに5名の会員を迎えました（5名入会、1名退会）。

イノベーションゲートウェイ湘南ロータリークラブ

会員の対象を地域の未来を構想し、地域貢献に挑戦するリーダーとして、新しいまちづくりが始まる地区（村岡藤沢）にボランティアに集まる場をつくる。新しい事にチャレンジしながらしなやかに課題を解決することができる、持続可能なコミュニティの形成。幅広い年代を支えるクラブとして成長しています。

③増強・維持に成功したクラブの共通点

- ・覚悟をきめたリーダーがいた（会長、増強委員長）。
- ・やるときめたらやる。
- ・これまでにやってこなかったことも積極的にチャレンジ。
- ・地区委員会、ガバナー補佐との連携が上手い。
- ・クラブの目標や戦略計画が明確にある。

④元気なクラブの共通点

- ・クラブとしてのありたい姿、目指す形が明確。
- ・会員一人ひとりの声を聞く仕掛けがある。
- ・会員の維持率が高い。
- ・会員増強に成功している。

⑤会員維持の重要性

会員の退会を防ぐことは、新規会員を増やすことと同じくらい重要です。そのためには、クラブが「居心地の良い場所」であることが大切です。ロータリークラブが成功するためには、会員のインクルージョンと帰属意識を育むことが不可欠です。

会員増強や維持に成功するクラブの鍵は、メンバーが楽しめる環境を作り、新しいことに挑戦し続けることです。私たち一人ひとりがクラブの未来を描き、行動することで、クラブは更に成長し活性化していくのではないかと思います。

最後に私がセミナーに参加して得た気づきは、私たち岩槻ロータリークラブはとても良いクラブなんだなということに改めて実感しました。今年度も小林篤会長、内藤幹事を始めとする全ての皆様、つまり「みんなで岩槻ロータリークラブ」「Enjoy Rotary!」で岩槻ロータリークラブをより良いクラブにして参りましょう。

●職業奉仕・社会奉仕部門セミナー報告 幹事 内藤 明

7月19日金曜日、ソニックシティ4階市民ホールにて職業奉仕・社会奉仕部門合同セミナーが開催されました。当クラブから幹事の内藤及び伊藤職業・青少年奉仕委員長が参加しました。

セミナーの構成は基調講演が前段で行われ、その後テーブルごとに分かれてディスカッションを行いました。

まず基調講演はNPO法人シャイン・オン・キッズ代表による『日本のこども病院で働くファシリティドックと育成』についての講演がありました。

ファシリティドックとは、病院に常勤して医療チームの一員として働けるように、専門的なトレーニングを受けた犬です。犬たちは臨床経験があり医療従事者でもあるハンドラーとペアになって活動し、単なる患者とのふれ合いにとどまらず、治療にも関わっていきます。

ファシリティドックは盲導犬や介助犬に比べて日本では知名度が低く、このNPOが派遣している5頭しか存在しません。現在2頭が新たに国内で教育中ですが、当初はアメリカで教育された犬を日本に導入していたそうです。また一頭の犬を一人前にするのに80万円ぐらい掛かるそうで、その資金は企業や個人の寄付で賄われており、その資金をどう捻出するか今後の課題の一つでもあります。

ファシリティドックの大きな特徴は、毎日同じ病院に勤務し、個々のニーズに合わせた活動を行い、いろいろな病院や施設を巡回訪問して短い時間で触れ合うのではなく、同じ犬がいつもいて多くの時間を過ごせることが、入院治療している子供たちの心の励みになります。この犬たちがそばにいて、病状が改善されたり、苦しい治療も耐え抜き、治療している子供だけではなく家族を含めた人たちのストレスの軽減にも役立っています。

子供たちと家族にとっては『犬』ではなく、病気を一緒に闘う仲間なのです。



セミナー当日は小児医療センターの関係者も参加されており、今後ファシリティドックの病院への導入に向けて地区が依頼して来ていただいているように思いました。

そして次に各テーブルに分かれてのディスカッションですが、自分のテーブルではファシリティドックを世間に周知させるにはロータリークラブが何をすれば良いかというテーマで討論しました。

NPO に対して育成資金の寄付を行う、またロータリーのイベントにファシリティドックを招いて市民に周知するなど様々な意見が出されました。まとめとしてロータリークラブが直接様々な支援をするだけでなく、今回のように犬を育成するNPOとシステムの導入を検討している病院の橋渡し役になることも必要と考えました。

また今後はロータリークラブがNPOと行政、行政と市民、NPOと市民などそれぞれが求める需要と供給を繋ぐ役割を担う団体に成長することを提言しました。



スマイルBOX

メンバー（50音順・敬称略）

- 小林 篤 本日は部門報告となります。よろしくお願い致します。
小林利郎 部門セミナー報告宜しくお願いします。
駒澤あい 本日もよろしくお願い致します。
鈴木真樹 本日も宜しくお願いします。
関根信行 本日は宜しくお願いいたします。
田畑寛樹 親愛なる皆様、こんにちは。本日は部門セミナー報告をさせていただきます。
本日も何卒宜しくお願い申し上げます。
津多一幸 部門セミナー報告宜しくお願いします。
内藤 明 本日は部門セミナー報告です。
よろしくお願い致します。
中村 正 セミナー報告よろしく！
原田晃博 本日は宜しくお願い致します。
松永 豪 本日もよろしくお願い致します。
三浦宣之 本日は宜しくお願い致します。
村上 泉 本日も宜しくお願い致します。

出席報告

会員数	出席数	免除者	MU	出席率
22	13			59.09%

スマイル報告

本日のスマイル合計	18,000円
年間累計額	268,000円